

東京大学大学院工学系研究科都市持続再生学コース  
2018年度 A2 ターム 都市社会論（都市経営基礎第4）  
シラバス案

担当 三浦倫平（横浜国立大学准教授）  
祐成保志（東京大学准教授）

開講日 2018年11月30日～2019年02月01日

金曜日 金曜6限（18:40-20:05）・7限（20:10-21:35）（85分×2）

工学部14号館141講義室（1階）

<講義の目的>

本講義では、「まちづくり」という集合的な実践について、主に社会学の観点から整理、分析、考察する。

かつて、経済開発一辺倒だった都市政策の問題性を主張し、社会開発（シビル・ミニマムの達成）を要求した住民運動/市民運動は「まちづくり」という流れに結実した。その後、現代に至るまで「まちづくり」という実践は多様な領域に展開し、「まちづくり」という言葉は社会に定着したが、その一方で、「まちづくり」の意味は多義化し、捉えがたいものになってきている。

そこで、本講義では、研究者/実践者の最新の研究報告を素材にして、「まちづくり」という実践を社会的な切り口から捉えると、どのような整理や分析、考察が可能になるのかということについて紹介、検討していきたい。その上で、受講者との双方向的なコミュニケーションを図り、相互理解を促進することを目指す。

**I. 都市社会論への誘い 11月30日**

まず初めに、「都市」を社会的に考察してきた都市社会学の議論の蓄積を紹介した後、「まちづくり」という市民・住民による「運動」を捉えるための基本的な視角、概念について検討する。

今年度のすすめ方、インストラクション

三浦倫平 ①「都市の社会理論——都市社会学を中心として」

三浦倫平 ②「都市空間と社会運動」

**II. 都市居住の社会学 12月07日**

居住（住む・住まうこと）は、身体的な実践を通じて断片的な諸資源を構造化する。住宅は地域社会に分断をもたらす可能性もあると同時に、分断を修復するための「結び目」にもなりうる。こうした両義性を抱えた住宅は「まちづくり」における重要な構成要素であり、その特質を分析する。

祐成保志 ③「住宅から都市を考える」

祐成保志 ④「住宅とまちの関係を編みなおす」

### Ⅲ. まちづくりの歴史と現在 12月14日

まちづくりがこれまでどのように展開してきたのか、そして今どのような状況にあるのか、「まちづくりの歴史と現在」について、まちづくり先進自治区である世田谷区の事例から分析を行う。

小山弘美 (東洋学園大学専任講師) ⑤「自治と協働から見た現代コミュニティ論」  
林泰義 (玉川まちづくりハウス) ⑥「まちづくり誕生の契機と歴史的展開を今日の視点から考える」

### Ⅳ. まちづくりの諸相①商いの場としてのまち 12月21日

まちづくりを考えていくうえで、「商店街」という主体/対象を無視して考えることは出来ない。商店街という消費空間がいかにして誕生したのか、この消費空間を維持、発展させることの困難性と可能性について分析を行う。

新雅史 (東洋大学非常勤講師) ⑦「消費空間の二極化」  
新雅史 ⑧「なぜ「小さな商い」が必要なのか」

### Ⅴ. まちづくりの諸相②地域社会の変容と持続 01月11日

「まちづくり」の主体や対象は必ずしも自明なものではない。街の諸条件によって、主体となる人々や目指す方向性は大きく変わってくる。一般的なまちづくり観を相対化するような歌舞伎町、向島の「まちづくり」の事例を通して、今後のまちづくりのあり方を展望する。

武岡徹 (東京大学助教) ⑨「『歌舞伎町』とはいかなる地域社会か」  
金善美 (同志社大学特別研究員) ⑩「『下町らしさ』再生の構想と現実」

### Ⅵ. まちづくりの諸相③災害復興とまちづくり 01月25日

まちづくりの領域の中でも、被災地における「復興」まちづくりは様々な困難を抱える事例であるが、そうであるが故に、その実践の成果や課題から学ぶべきことは多くある。そこで、復興に向けたまちづくり実践の事例を紹介し、その意義や課題を検討する。

三浦倫平 ⑪「『復興』とは何か」  
清水亮 (東京大学新領域創成科学研究科准教授) ⑫ (未定)

### Ⅶ. 都市社会論の基本問題と視点 01月30日

これまでの講義を担当教員の視点で整理し、中間総括を行う。

三浦倫平 ⑬「中間総括Ⅰ」  
 祐成保志 ⑭「中間総括Ⅱ」

### Ⅷ. 受講者報告と全員の討議 02月01日

⑮ ⑯ 受講者報告 (報告者 各 10分)  
 討議者及び総括; 三浦倫平、祐成保志